

Vフロン
#200
スマイルRB
メタリック

特集

中高層建築物のストック活用を実現させ、 周辺環境に配慮した金属製カーテンウォール

01

開発のきっかけ

国内の中高層建築物の外壁には金属製カーテンウォールも多く使用されています。この内の多くは陽極酸化皮膜処理(発色アルマイトも含む)されたアルミニウム合金材料による金属調仕上げで、残りが焼付塗装による仕上げとなっています。高度成長期に竣工された中高層建築物の外壁に使用されている発色アルマイト仕上げの金属製カーテンウォールは経年劣化が進行しているものもありますが、ほとんどが改修されていません。

その理由として、メタリック塗料での金属調仕上げをローラー塗装にて行った場合は輝度ムラが目立ち、満足する仕上がりが得られません。また、スプレーでの塗装を行うには、スプレーダストが飛散し、周辺環境への被害が懸念され、大掛かりな飛散防止対策が必要となります。これらのことから、従前の改修工事ではエナメル仕上げとなり、金属調で仕上げられた新設時建築物のデザイン性を損なわずに改修できないことが挙げられます。このような改修阻害要因を解決した、塗料・塗装仕様を確立することで、発色アルマイト仕上げの金属製カーテンウォールの改修方法を提案し、改修需要の対応を行っています。

02

「Vフロン#200スマイルRBメタリック」の特長

(1) ローラー塗装で塗り継ぎムラや輝度ムラがない 金属調仕上げが可能

アルミ顔料の種類・量・粒径、また独自の配合技術でアルミ顔料の配向を制御し、ローラー塗装でもムラのない塗膜外観となります。



03

施工実績を積み重ねて

神戸国際交流会館の外壁(約1万㎡)に採用され、2017年4月に完工し、竣工当時の高輝度な外観に甦りました。



竣工時(1981年2月)



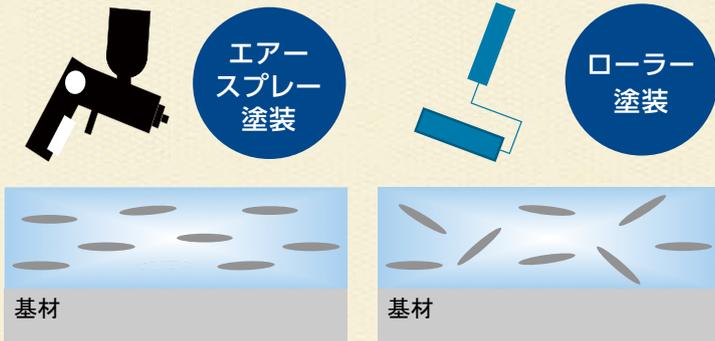
塗り替え前(2016年10月)



塗り替え後(2017年4月)

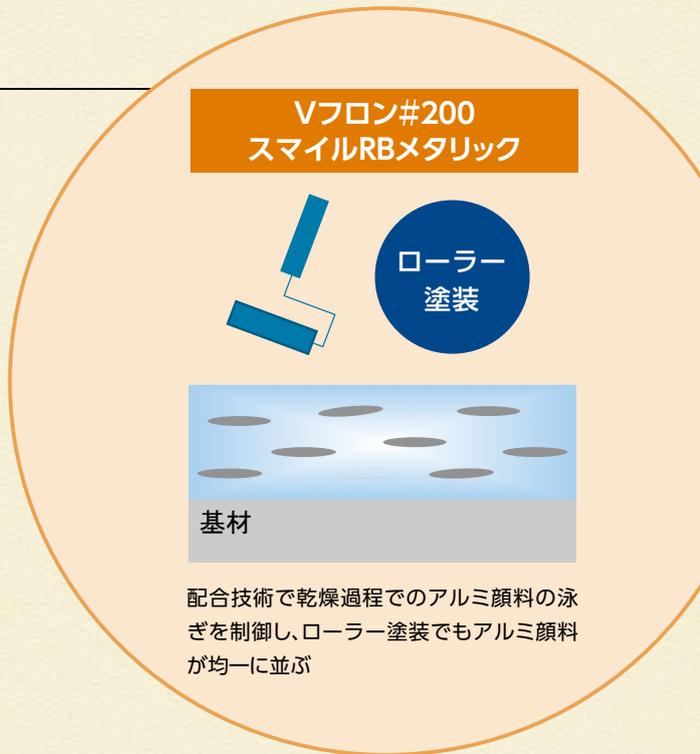
改修向けローラー塗装が可能なメタリック塗料

従来のメタリック塗料



エアースプレー塗装の塗装技術により
アルミ顔料が均一に並ぶ

アルミ顔料が乾燥過程で泳ぎ、
不均一になる



配合技術で乾燥過程でのアルミ顔料の泳ぎを制御し、ローラー塗装でもアルミ顔料が均一に並ぶ

(2) 既に市場で20年以上実績のあるふっ素樹脂を使用
促進耐候性試験結果(キセノンウェザオメーター)では市場
で実績のあるソリッド色のふっ素樹脂塗料と同等の光沢保持
率を有します。また、その他の塗膜品質も問題ありません。

(3) 臭気が少なく、使い勝手のよい弱溶剤形塗料
弱溶剤形塗料は、強溶剤形塗料と比較し臭気が少なく、また
専用シンナーを必要とせず、弱溶剤形塗料全般に使用可能な
塗料用シンナーで希釈することができます。

(4) カラーバリエーション
現在はシルバー色のプラチナシルバーと、発色アルマイト
への塗り替えを考慮したシャンパンゴールドの2色のみです
が、今後はブロンズ色も上市する予定です。

(5) 仕上げ
最終仕上げのクリアー塗料には、艶有または落ちついた風
合いの3分艶の2種類から、お客様のお好みにより選択が可能
です。

関東地区でも商業施設の外壁(約600㎡)に
採用され、2017年8月に完工しました。



都内商業施設の施工後

改修市場の新たな需要を掘り起こし 社会に貢献

過去には中高層建築物は、壊して建て替えることもあった
が、昨今はストック活用の考えが主流となってきています。今ま
でエナメル仕上げしかできなかったことから改修をあきらめ
ていた建築物に、本塗料を提案することで、劣化した塗装仕
上げおよび発色アルマイト仕上げの金属製カーテンウォール
の改修需要を創出させます。さらに商業施設のエントランス
などの高意匠仕上げが求められる部材に対しての使用も期待
でき、新たな需要を掘り起こせるものと考えます。今後も環境・
安全・健康をキーワードに、メンテナンス用に特化したオン
リーワン商品および他社との差別化商品を提供することで、
社会に貢献していきます。